

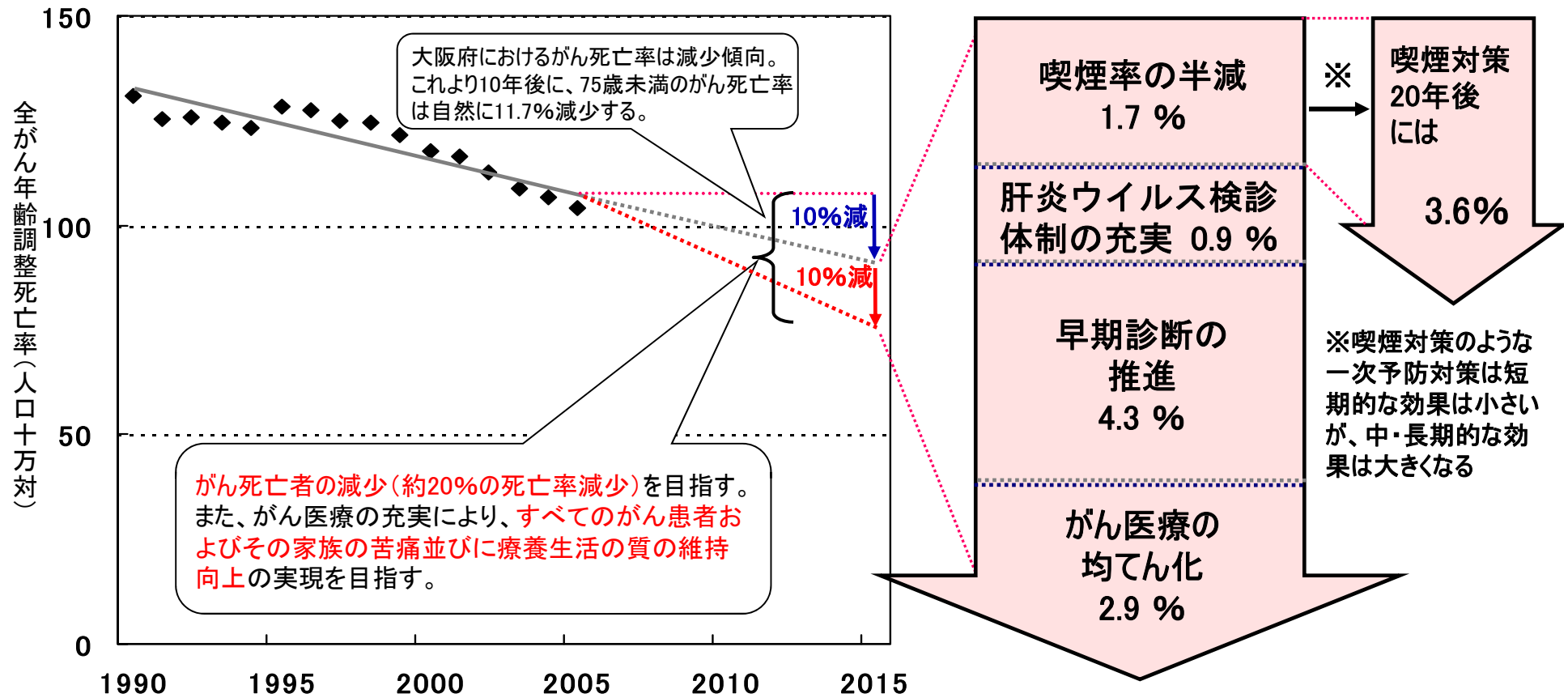
# 大阪府がん対策推進計画の中間年 における4分野の進捗の概要

大阪府立成人病センター  
がん予防情報センター

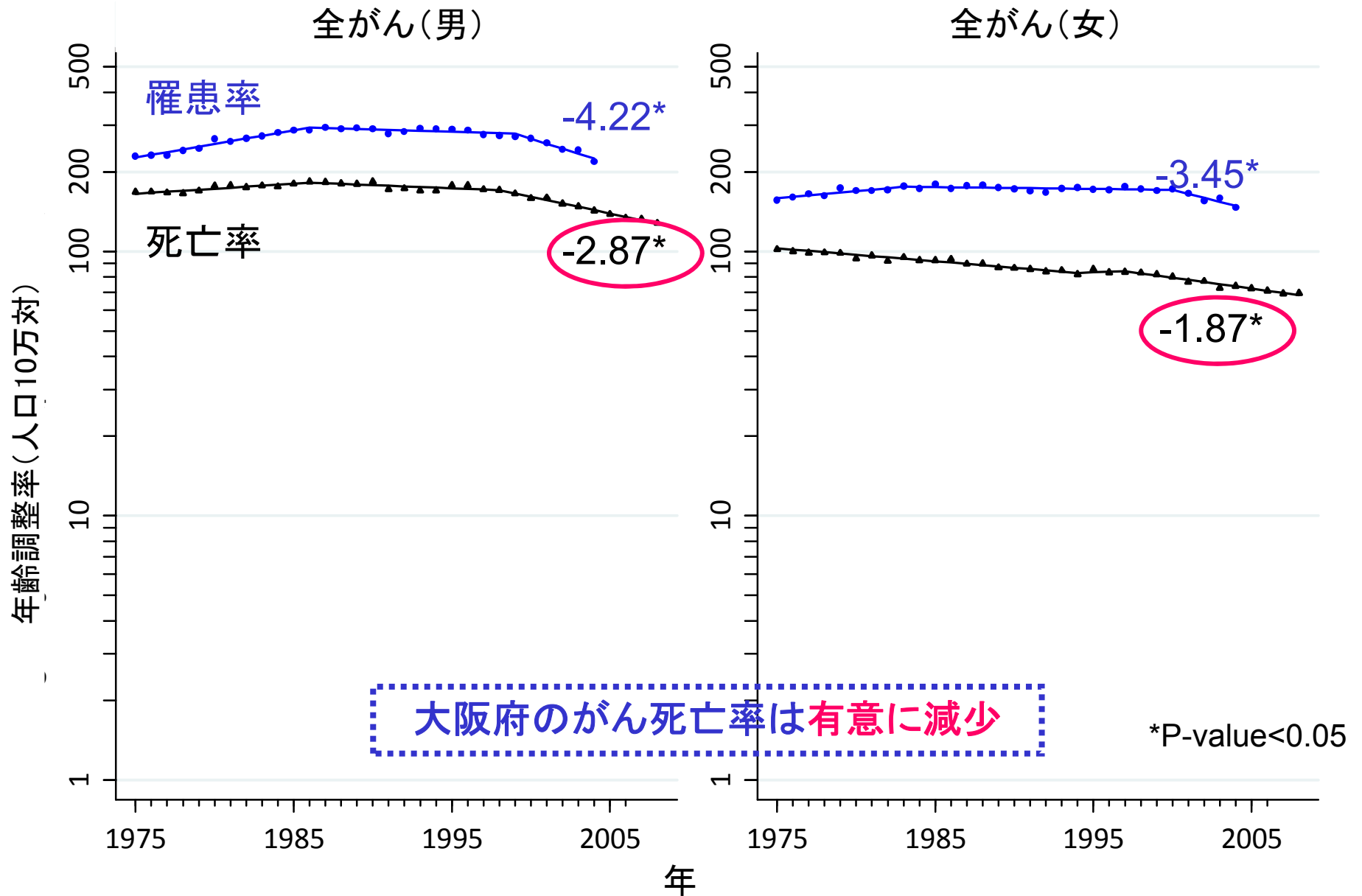
井岡 亜希子

# 全体目標を達成するための分野別施策の目標設定と死亡減少効果

## ＜分野別施策による死亡率減少＞

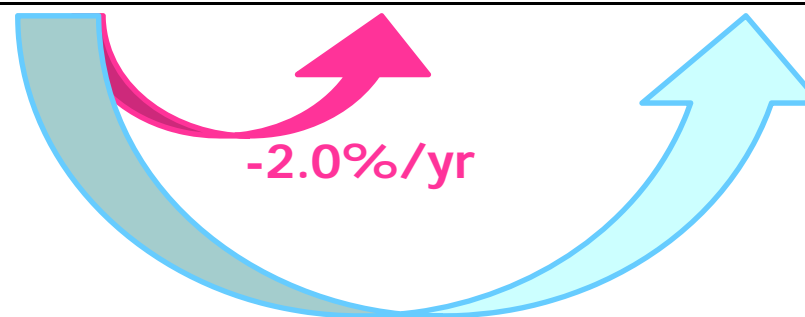


# 75歳未満全がん死亡率の減少(大阪府)



# がん死亡率の減少(大阪府)

	2005 yr	2008 yr	2015 yr
がん年齢調整死亡率 (75歳未満)	104.0 (100%)	97.6 (93.9%)	<83.2 (<80%)



今後10年間で-20%?

# がん死亡率減少にどの部位のがんの死亡率減少が寄与しているか？

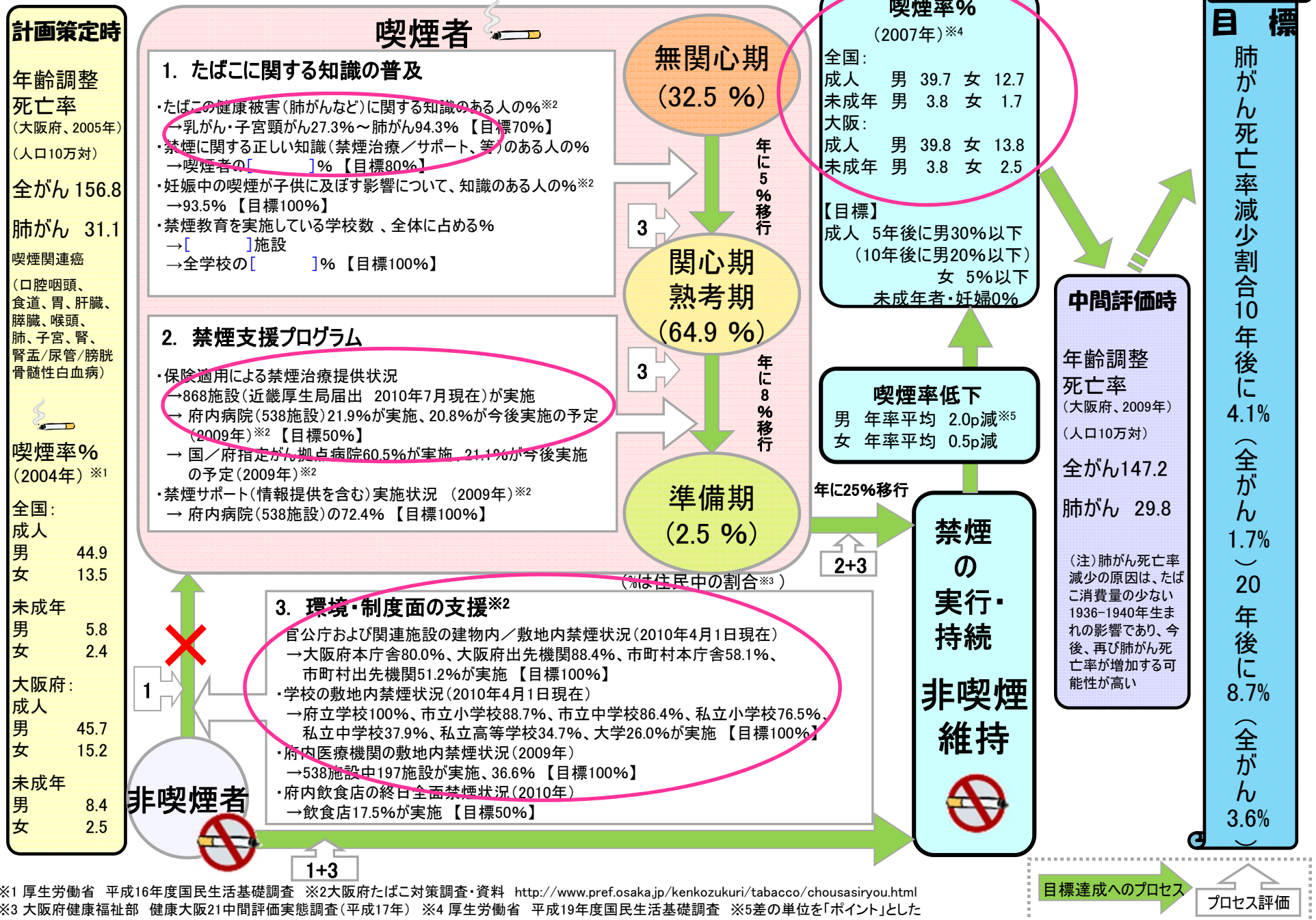
部位別死亡率減少の寄与度(男)

1995-2005		2005-2008	
部位	寄与度 %	部位	寄与度 %
肝	51.6	肝	50.3
胃	23.8	胃	21.9
肺	8.9	肺	14.3

# 胃がん、肝がんの死亡率減少に、その罹患率の減少がどのくらい寄与しているか？

部位別罹患率減少の寄与度

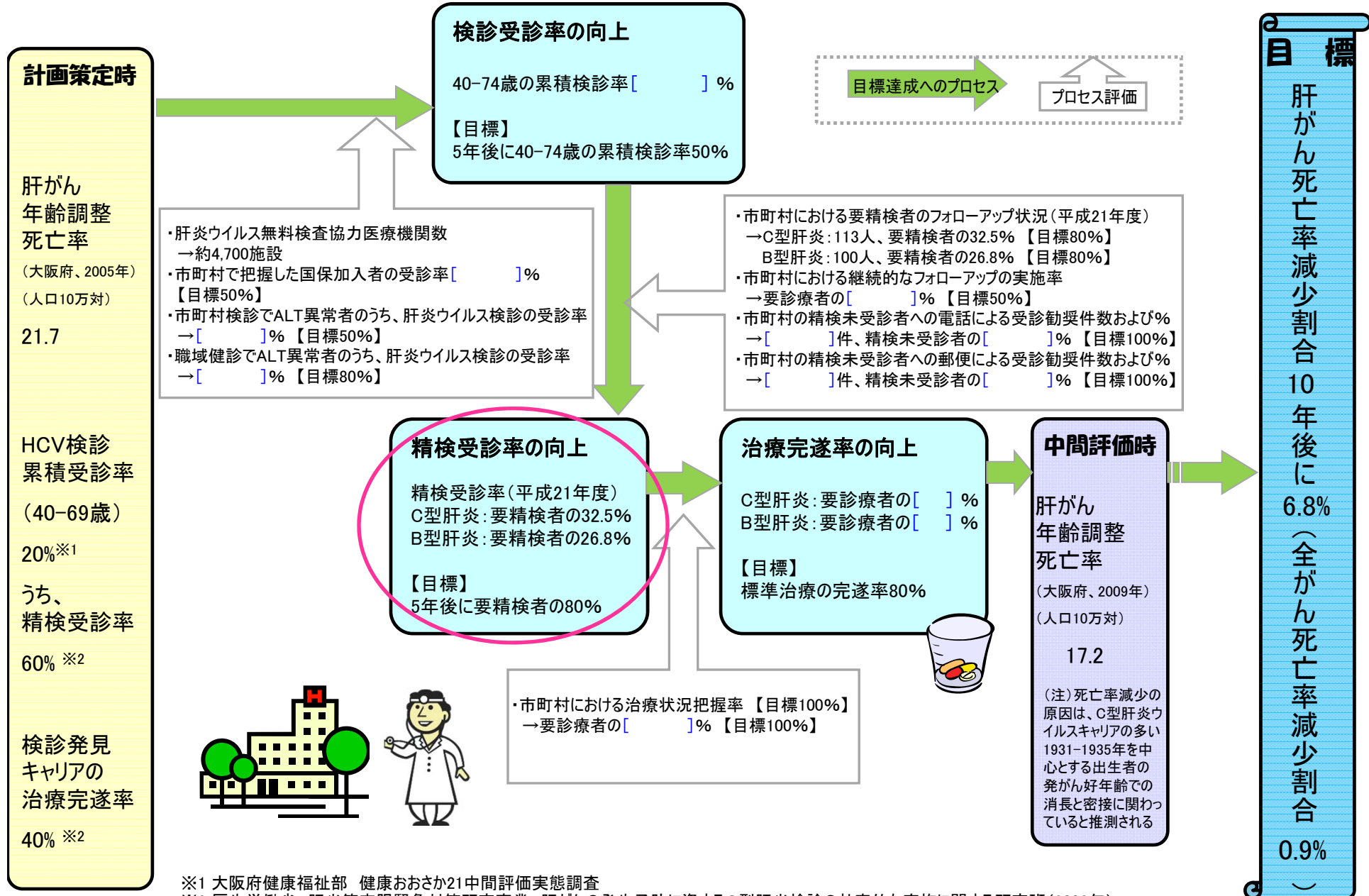
男		女	
部位	寄与度 %	部位	寄与度 %
肝	80.4	胃	58.8
胃	63.2	肝	75.3
肺	68.5	大腸	-



※1 厚生労働省 平成16年度国民生活基礎調査 ※2 大阪府たばこ対策調査・資料 <http://www.pref.osaka.jp/kenkozukuri/tabacco/chousasiryout.html>  
 ※3 大阪府健康福祉部 健康大阪21中間評価実態調査(平成17年) ※4 厚生労働省 平成19年度国民生活基礎調査 ※5 差の単位を「ポイント」とした

## 2) 肝炎ウイルス対策の進捗状況

資料:20ページ



※1 大阪府健康福祉部 健康おおさか21中間評価実態調査

※2 厚生労働省 肝炎等克服緊急対策研究事業 肝がんの発生予防に資するC型肝炎検診の効率的な実施に関する研究班(2003年)



### 3) 早期診断・がん検診の進捗状況

目標達成へのプロセス

プロセス評価

資料: 21ページ

限局割合の増加  
最良県レベルに

適切な治療  
(医療の部へ)

適切な治療 (医療の部へ)

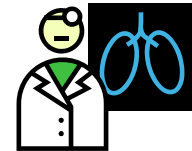
**目標**  
部位別死亡率  
減少割合  
胃 10.6%  
大腸 12.5%  
肺 4.7%  
乳房 3.2%  
子宮 12.2%  
全がん死亡率  
減少割合 4.3%

科学的根拠に基づいた  
効果的ながん検診の実施

受診率の向上・  
検診規模の拡大

**中間評価時**  
部位別年齢調整死亡率  
(大阪府、2009年)(人口10万対)  
胃 21.3 大腸 16.8 肺 29.8  
乳房 6.5 子宮 5.4

がん検診の  
各精度指標の把握



・40-69歳の胃がん検診受診率※5  
→23.5%【目標50%】  
・40-69歳の大腸がん検診受診率  
→21.3%【目標50%】  
・40-69歳の乳がん検診受診率  
→18.3%【目標50%】  
・20-69歳の子宮頸がん検診受診率  
→19.4%【目標50%】  
・早期診断の割合※6  
(上皮内がん+限局割合、2005年)  
→胃 44.8%【目標60%】  
→大腸 49.6%【目標70%】  
→肺 23.7%【目標40%】  
→乳房 63.9%【目標70%】  
→子宮頸部 68.5%【目標70%】  
・検診発見がんの早期がんの割合※4  
→胃 54.9%【目標60%】  
→大腸 55.3%【目標60%】  
→肺 28.7%【目標50%】  
→乳房 49.8%【目標50%】  
→子宮 53.6%【目標50%】

・地域がん登録資料との記録照合  
により検診の精度管理を実施し、偽  
陰性等を把握している市町村数、  
委託検診実施機関数  
→0市町村【目標10市町村】  
→1機関【目標5機関】  
・がん検診の偽陰性率を公開してい  
る市町村数  
→0市町村【目標10市町村】

・「胃X線検査」実施の市町村数  
→43市町村【目標43市町村】  
・「大腸便潜血検査」実施の市町村数  
→43市町村【目標43市町村】  
・「乳房マンモグラフィ検査」実施の市町村数  
→43市町村【目標43市町村】  
・「子宮頸部擦過細胞診」実施の市町村数  
→43市町村【目標43市町村】  
・「非喫煙者に対する胸部X線検査」実施の市  
町村数  
→43市町村【目標43市町村】  
・「ヘビースモーカーに対する胸部X線検査+喀  
痰細胞診」実施の市町村数  
→43市町村【目標43市町村】  
・有効性が確認・推奨されていない検診実施  
の市町村数【目標0市町村】  
→超音波検査/視触診単独の乳がん検  
診 13市町村  
前立腺がん検診 15市町村

・胃がん検診  
→精検結果把握率 82.7%【目標90%】※3  
→精検受診率 78.3%【目標80%】※4  
・大腸がん検診  
→精検結果把握率 77.6%【目標90%】※3  
→精検受診率 48.7%【目標70%】※4  
・乳がん検診  
→精検結果把握率 83.6%【目標90%】※3  
→精検受診率 88.6%【目標90%】※4  
・子宮頸がん検診  
→精検結果把握率 84.5%【目標90%】※3  
→精検受診率 69.0%【目標70%】※4  
・肺がん検診  
→精検結果把握率 80.2%【目標90%】※3  
→精検受診率 73.3%【目標80%】※4

標準的な精検実施  
精検受診率向上

がん検診精度管理体制の確立

**計画策定時**  
年齢調整死亡率  
(大阪府、2005年)  
(人口10万対)  
全がん 156.8  
胃 23.6  
大腸 17.9  
肺 31.1  
乳房 6.5  
子宮 5.7  
がん罹患者の  
限局患者割合  
大阪府(2003年)  
VS 最良県※1  
胃 44% 59%  
大腸 48% 62%  
肺 24% 38%  
乳房 57% 61%  
子宮 63% 67%  
(上皮内を含む。)  
(上皮内17% 36%)  
検診受診率※2  
胃(40-69歳)17.9%  
大腸(40-69歳)15.2%  
肺(40-74歳)10.8%  
乳房(40-69歳)17.9%  
子宮(20-69歳)20.3%

※1 平成14年度「地域がん登録」研究班 第9回がん患者進行度分布に関する協同調査 ※2 平成16年度国民生活基礎調査 ※3 老人保健事業報告(2003-2007)  
※4 大阪府におけるがん検診 平成19年度版 ※5 平成19年度国民生活基礎調査 ※6 大阪府におけるがん登録第73報

# 4)がん医療の進捗状況

資料:22ページ



**計画策定時**

年齢調整死亡率 (大阪府、2005年) (人口10万対)

全がん	156.3
食道	5.7
胃	23.0
大腸	17.9
肝臓	21.7
胆のう	5.9
膵臓	9.8
肺	31.1
乳房	6.5
子宮	5.7
卵巣	4.3
前立腺	8.0
膀胱	2.2
悪性リンパ腫	3.7

受療の望ましい医療機関数 (年間治療件数の多い医療機関から順に件数を累積し、治療を受けたすべての患者の50%をカバーしている多/中件数病院の機関数。但し、胃・大腸・乳がんでは75%で少件数病院を含む。1994-98年) ※1

食道	9機関
胃	46機関
大腸	49機関
肝臓	18機関
胆のう	22機関
膵臓	19機関
肺	8機関
乳房	28機関
子宮	5機関
卵巣	12機関
前立腺	10機関
膀胱	9機関
悪性リンパ腫	13機関

**がんによる死亡者の減少、患者のQOL向上を目指したがん医療の推進**

がん診療連携拠点病院<国指定> 14施設  
 ・がん診療拠点病院<府指定> 36施設  
 ・現況報告に基づいた診療機能を公表している施設→すべての国/府指定がん拠点病院  
 ・地域がん登録資料に基づいた、各がんの診療数/生存率を公表している国/府指定がん拠点病院の施設数(2011年1月)

食道がん	0/0施設	胃がん	45/32施設
大腸がん	45/32施設	肝がん	45/29施設
胆のうがん	0/0施設	膵がん	0/0施設
肺がん	48/17施設	乳がん	45/25施設
子宮がん	0/0施設	卵巣がん	0/0施設
前立腺がん	0/0施設	膀胱がん	0/0施設
悪性リンパ腫	0/0施設		

**放射線療法および化学療法の推進**

- 各がんの放射線療法実施率(2003年→2005年)
- 咽頭がんの限局 78.0% → 76.7% 【参照60%】※2
- 声門がんの限局 84.7% → 79.3% 【参照75%】
- 声門上がんの限局 76.9% → 75.0% 【参照75%】
- 乳がんの限局 30.8% → 30.1% 【参照50%】
- 子宮頸がんの領域 77.5% → 74.7% 【参照85%】
- 前立腺がんの限局 6.2% → 11.5% 【参照40%】
- 食道がんの放射線化学療法実施率 26.2%
- 大阪府における日本放射線腫瘍学会認定医数(2011年1月)※3 →51人

**中間評価時**

年齢調整死亡率 (大阪府、2009年) (人口10万対)

全がん	147.2
食道	5.7
胃	21.3
大腸	16.8
肝臓	17.2
胆のう	5.5
膵臓	10.7
肺	29.8
乳房	6.5
子宮	5.4
卵巣	4.1
前立腺	6.5
膀胱	2.2
悪性リンパ腫	4.2

**均てん化: がん診療連携拠点病院等のカバー率※4の増加**

**緩和ケアの充実**

- 日本のモルヒネ、フェンタニル、オキシドンの合計(100万人1日あたりモルヒネ消費量換算、2004-06年→2005-09年) 69.1g → 77.5g ※5
- 【目標 使用量の増加(参照値 アメリカ 1403.4g → 1567.2g)】
- 国指定/府指定がん拠点病院における機能、診療従事者数(2010年)
- (1)緩和ケア病棟を有する施設数→国指定1施設、府指定3施設
- (2)緩和ケア病床数→国指定34病床、府指定109病床
- (3)緩和ケアチームにおいて身体症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する専任医師数→国指定20人、府指定50人
- (4)緩和ケアチームにおいて精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する医師数→国指定21人、府指定30人
- (5)緩和ケアチームにおいて緩和ケアに携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師数→国指定33人、府指定69人

**在宅医療**

- 在宅死亡数、在宅死割合(がん死亡数に占める%、大阪府、2008年)※6
- がん死亡者の在宅死亡数1,832人、在宅死割合8.2%

**受療の望ましい医療機関のカバー率**

(年間治療件数の多い医療機関から順位をつけ、上位から計画策定時の「受療の望ましい医療機関数」までの医療機関におけるカバー率を算出。目標80%。2005年)

食道がん	カバー率56.9%	(年間治療件数 22件以上)
胃がん	カバー率81.6%	(年間治療件数 19件以上)
大腸がん	カバー率81.9%	(年間治療件数 21件以上)
肝がん	カバー率58.4%	(年間治療件数 28件以上)
胆のうがん	カバー率57.2%	(年間治療件数 7件以上)
膵がん	カバー率56.5%	(年間治療件数 12件以上)
肺がん	カバー率46.2%	(年間治療件数107件以上)
(注)肺がん<手術症例>では、カバー率54.4%、年間治療件数34件以上		
乳がん	カバー率82.4%	(年間治療件数 23件以上)
子宮がん	カバー率54.4%	(年間治療件数 78件以上)
卵巣がん	カバー率63.4%	(年間治療件数 10件以上)
前立腺がん	カバー率55.4%	(年間治療件数 27件以上)
膀胱がん	カバー率41.3%	(年間治療件数 27件以上)
悪性リンパ腫	カバー率57.3%	(年間治療件数 18件以上)

**目標**

**部位別 死亡率減少割合**

食道	1.8%
胃	3.2%
大腸	4.3%
肝臓	2.9%
胆のう	2.5%
膵臓	0.9%
肺	2.6%
乳房	3.5%
子宮	8.8%
卵巣	5.3%
前立腺	8.3%
膀胱	4.7%
リンパ	6.2%

**全がん 死亡率減少割合 2.9%**

※1 Ioka A, Tsukuma H, Ajiki W et al. Hospital procedure volume and survival of cancer patients in Osaka, Japan: a population-based study with latest cases. Jpn J Clin Oncol. 2007;37:544-53.  
 ※2 NCI. SEER\*Stat6.2.4.2006 ※3 日本放射線腫瘍学会ホームページ ※4 カバー率 =  $\frac{\text{当該治療機関における治療件数}}{\text{府全体の原発届出患者数}-\text{主治療医療機関不明数}} \times 100$  ※5 国際麻薬統制委員会(INCB)報告 ※6 大阪府におけるがん登録第73報